

# 露地野菜におけるスマート農業技術の導入推進

県西農林事務所坂東地域農業改良普及センター

古河市はキャベツ等の葉菜類を主軸とした大規模露地野菜経営体が多い地域で、規模拡大を志向する若手農業者や、雇用を導入した中核的な経営体も育ちつつあります。

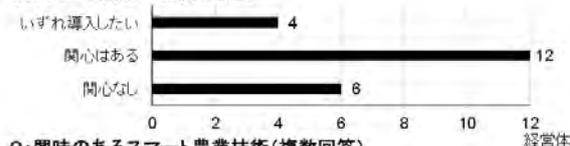
さらなる販売力強化に向け、令和4年からキャベツ収穫予測システムの技術実証に取り組んでいます。実証支援とともに技術の導入推進を図った結果、当技術の試験導入数が令和6年に7経営体まで拡大しました。選ばれ続ける産地を目指し、引き続き技術の導入推進と定着支援を行っていきます。

## 技術の導入意向の把握

露地野菜で導入事例の少ないスマート農業への関心状況を把握するため、古河市の露地野菜経営体にアンケート調査を実施しました。

その結果、スマート農業技術を未導入である22経営体のうち7割が技術への関心を持っていること、中でも生育情報が見える化する「収穫予測システム」への関心が高いことが明らかとなりました(図)。

### Q:スマート農業への関心程度



### Q:興味のあるスマート農業技術(複数回答)

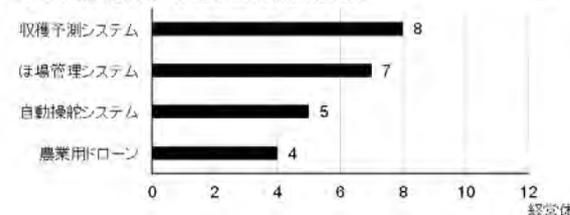


図 スマート農業に対する関心度調査結果



写真1 収穫予測システムに係る意見交換会

## 技術実証による産地適用性の確認

関心の高かった収穫予測システムについて、キャベツを対象に令和4年から技術実証に取り組んでいます。併せて、生産者と開発元との意見交換の場を設ける等、産地の実情に即した技術活用ができるよう支援してきました(写真1)。

実証経営体からは、「不安定な気象条件の中でも作業計画を効率的に策定し出荷できた」との意見が挙がる等、実証により収穫予測システムの産地適用性と導入可能性を確認できました。

## 実演による導入推進活動

技術の導入推進を図るため、10月に「スマート農業技術 実演会」を開催しました(写真2)。参加者43名(うち生産者30名)からは「取引先との交渉材料の一つになりうる」等、販売力強化や信頼構築への期待を寄せる声が挙がりました。

これらの推進活動により、キャベツ収穫予測システムの試験導入数は、令和4年:3経営体→令和5年:4経営体→令和6年:7経営体へと取組が拡大しました。



写真2 スマート農業技術 実演会(10/5開催)